

319-1953

日本組織培養学会

平成元年12月25日

会員通信

第 70 号

発行責任者

鈴木利光(福島県立医大)、菊川忠裕
(聖マリアンナ医大)、許 南浩(東
大・医科研)、間中研一(獨協医大)、
大島 浩(大阪歯大)
福島市光が丘1 (〒960-12)
福島県立医大第2病理
電話 (0245) 48-2111 内線2190

§ 日本組織培養学会平成元年度第3回幹事会議事録



日 時：平成元年11月27日(月) 午後3時～7時

場 所：東北大学医学部良 陵 会館

出席者：黒田行昭会長、梅田 誠、野沢志朗、鈴木利光、菊川忠裕、水沢 博、難波正義、中野修治、
以上幹事

乾 直道(会計補佐)、高木良三郎(編集委員会委員長)、今西二郎(平成元年度第63回大会
世話人)、大野忠夫(細胞バンク委員会)、奥村秀夫(IACC委員)

黒田会長の挨拶で開会されました。

1. 会 長 報 告 (黒田会長)

- 他の学会や研究会などからシンポジウムや大会の協賛依頼が多数寄せられています。たとえば、第4回「大学と科学」公開シンポジウムで「心臓と血管の科学」(12月4日、5日、有楽町朝日ホール)および「がんに挑む」(12月15、16日、日商ホール)、日本宇宙生物学会第3回大会シンポジウム「バイオリズムと宇宙」などで庶務幹事と相談のうえ協力することにしました。
- 1991年には米国培養学会において、日米合同会議開催の呼びかけが、USTCA会長 Stevenson 博士からきておりますので、前向きに考えて頂きたいと思います。
- 日本科学技術情報センターより、会誌「組織培養研究」に掲載された英文抄録を利用したい旨申し出がありました。
- 幹事会の引き継ぎをスムーズに行いたいという趣旨で、幹事の任期をオーバーラップさせるような会則の変更に関する件もさらに議論していただきたいと思います。

2. 報 告 事 項

1) 庶 務 報 告 (難波、水沢幹事)

- 前回幹事会以降、本年7月から10月まで26名が入会申請を行い、7名が退会しました。新入会員については全員承認されました。この結果、現在の会員数は正会員709名、賛助会員63名、海外会員17名、名譽会員1名となりました。
- 昭和63年度および、平成元年度の奨励賞募集は会員通信号に掲載しましたが、まだ応募はありません。再度次号の会員通信に募集に掲載するとともに、大会時の座長に推薦の依頼状を送付します。
- 平成2年度は幹事選挙の年にあたるので、その準備のため選挙管理委員の選出が提案され、承認されました。ついで、管理委員として、中野修治、桶田俊光の両幹事が推薦され、承認されました。今回は幹事のみ選挙となりますが、前回幹事会で提案された選挙方法や第62回大会総会で出された意見(会員通信第66号掲載)をもとに種々検討を加え幹事選挙は従来どおり2年ごとに行うが、平成4年度の選挙の際に任期3年の幹事を4名(40歳以上2名、40歳未満2名)と任期2年の幹事4名(40

歳以上2名、40歳未満2名)を選出し、平成6年以降は毎年4名ずつ交替する案が提出され、承認されました(後掲)。この案は平成2年度の総会にはかり承認されれば実施されます。平成2年度の幹事選挙は従来どおりの方法で会員通信第71号(平成2年3月発行予定)に公示し、実施する予定です。

2) 会計報告(梅田幹事)

- 平成元年度の中間収支状況では出版利益が適度にあがり、特別会計は順調に推移しています。
- しかし、委員会の活動が活発化しているため、出費も多く、一般会計への収入を増やす方を講じる必要があるように思われます。これは会費の値上げや広告収入の増収を計るなどの方法を考えていただきたいと思います。
- 会費の納入率は80%ぐらいで比較的良好ですが、学会の運営を活発にするために今後とも納入を確実にするために積極的にお願いいたします。
- 幹事からは活動が活発になることは基本的にはいいことなので、なんとか収入を増やす努力をする必要があるというコメントがありました。

3) 渉外報告(野沢幹事)

- 7月10日付けで黒田・野沢名の手紙を、MacGarrity、Stevenson 両博士に出し IACC と USTC A との関係と位置付けを明確にしてもらうようお願いし、解答を得ました。

4) 編集委員会報告(高木編集委員会委員長)

- 第1回編集委員会を開催し、投稿規定と編集委員会規定の改定作業を実施し、案を作成しました(次号掲載)。
- 投稿規定についての詳細な説明の後討議され、原稿をフロッピーディスクで受け付けることについては了承されましたが、使用するワードプロセッサの種類まで規定してしまうのは問題であるということが指摘され一部変更の上承認されました。
- 編集委員会規定についても詳細な説明があり討議の後承認されました。
- 平成2年2月に発行する予定の「組織培養研究」第8巻第2号については本年度仙台で開催された細胞工学シンポジウム、平成元年度奨励賞受賞者によるミニレビューと佐藤二郎先生原稿を掲載し、さらに投稿論文を掲載する予定です。
- 広告については30社以上が必要で、現在まで約90万円が集まっています。今後とも集まるよう御協力ください。
- 今回刷新してあらたにスタートする「組織培養研究」に英語名を付けたいので、よい案がありましたら編集委員会までお知らせください。
- 幹事の先生方の投稿を待っております。

5) 会員通信報告(鈴木幹事)

- 8月末に会員通信第69号を発行しました。多少厚くなったため経費がかさんでしまいました。今後はあまり厚くなりすぎないように心がけます。
- 平成2年度の第63回大会が例年より少々早くなっていますので、大会案内と演題申し込みの案内は平成元年12月末に予定している会員通信第70号に掲載する予定です。

6) 日本組織培養学会付置委員会からの報告

(1) 細胞バンク委員会の報告(大野委員)

- 2年間の限定委員会として発足し、わが国における細胞バンクのありかた、品質管理方法の統一プロトコルの作成、細胞バンクデータベースの作成、培養細胞を扱う上での倫理問題や所有権の問題などが話しあわれてきましたので、これらをまとめた報告書を今期幹事会に提出する準備に入りました。
- しかし、細胞バンクをめぐる問題は多岐にわたることと、継続性が必要であることを鑑みて、2

年間の限定委員会ではなく、常置委員会として継続を希望することが提案されました。

(2) 細胞工学委員会報告 (梅田委員)

- 本委員会がどれだけ日本組織培養学会に貢献できるかを十分に考えた活動をしてゆきたいと考えています。
- そのため毎年1回必ずシンポジウム(日米合同も含む)などを企画して行きたいと考えています。
- 今後この委員会の重要性は益々増大すると考えられるので、常置委員会とすることを希望します。

(3) 教育システム委員会報告 (梅田委員)

- 現在企画中の書籍が「組織培養による毒性試験」と「細胞生物学」の2種類ありますが、現在70%ほどの原稿が集まっているところです。

7) 平成2年度第63回大会の準備状況についての報告 (今西二郎世話人)

- 平成元年7月から実行委員会をつくって寄付集めやスケジュール、宿泊のアレンジなどの準備を進めています。
- 第63回大会は平成2年5月21日(月)～23日(水)、国立京都会館で開催の予定で、特別講演、教育講演のほかシンポジウムとして「神経系細胞の形態分化と機能発現」、「小児固形腫瘍の細胞生物学的特性」、「ホルモン依存性腫瘍」、「マイコプラズマと組織培養」などを企画しています。
- 今回は一般講演演題申し込み締め切りを平成2年1月31日(必着)、抄録締め切りを2月20日ぐらいにする予定で、12月に発行される会員通信第70号に大会案内と講演参加申し込みを掲載する予定です。

8) IACC会議報告と今後の対応について

- 黒田会長より平成元年8月末にGraz, Austriaで開催されたヨーロッパ組織培養学会第37回大会の際に開催されたIACC会議へ出席した報告があり、さらに、一緒に同会議に出席した奥村会員から補足説明がありました。McGarrityからは会議の議事に関してまとめたメモが送られています。
- Griffithsからは会計について報告がありましたが、日本とアメリカから2名の旅費が支出されたにすぎません。今回日本から2名出席しましたが、1名分がIACCから支出されています。IACCの設立以来行った作業は会則の作成が主な内容で、今回承認されました。

会議の主な内容はIACCの歴史、他の学会などとの関係、倫理問題、マイコプラズマ、学術用語、培養細胞の標準化などについて議論されました。また、1991年の米国組織培養学会から日本組織培養学会に提案のあった組織培養学会連合大会に対しての取り組みについて議題になりましたが、ヨーロッパの組織培養学会は、あまり積極的ではありませんでした。しかしヨーロッパの培養学会が積極的では無いということから1991年のカリフォルニアで開催の組織培養学会は日米合同会議となることが予想され、IACCの会議がこの合同の大会にどのような形で参加するかは微妙な問題があります。

IACCとしては細胞の標準化、マイコプラズマ汚染に関する諸問題、培養に関連する用語の統一に関する議論をしたいという提案がありました。しかし、ヨーロッパの培養学会からは細胞株の標準化や用語の統一については否定的に考えているとの見解が示されました。理由は、細胞の標準化は政治的に利用される恐れがあるということと、用語の統一については、まだ熟していないので、経験などを中心にして議論するにとどめるべきだという内容でした。

なお、この合同会議に向けてアメリカ側ではプログラム作成などの準備を始めているということで積極的な姿勢が示され、日本組織培養学会会長としては日本側も早急に組織委員会を確立するなどの体制を確立してはどうかという考えが提案されました。

順序としては、日米合同会議についてはIACCがどのような形で参加し、また日米合同会議の運営などについて、McGarrityとStevensonとで十分に煮詰めてから日本側の体制を確立する必要があるということになりました。しかし、開催期日まであまり時間が無いので早急に連絡をとりあって結論を出す必要があります。また、今回の幹事会で結論は得られませんでしたので、次期幹事との合

同で決定することになると思われます。

§ 規約改正の件 (案)

組織培養学会会則、第4章役員、第7条の規約を以下のように改正することが幹事会が話し合われましたので、会員の皆様にお諮りしたいと思います。

改正の理由：現在の規約では2年ごとに8名の幹事が全員改選される。また、4年ごとに会長と幹事が全員改選される。したがって、この規約では、学会の事務のスムーズな引継が難しく、その事務の低能率化を招く。

以上のような理由で、幹事会の構成に関して以下のように改正したい。

現在の第7条：会長および幹事は、細則の定めるところにより、正会員の投票により選出される。会長の任期は4年とする。幹事の定数は40歳以上4名、40歳未満4名とし、任期は2年とする。

改正提案される第7条：会長および幹事は、細則の定めるところにより、正会員の投票により選出される。会長の任期は4年とする。幹事の定数は40歳以上4名、40歳未満4名とし、任期は2年とし、4名の半数の幹事が1年ごとに交替する。

具体的には以下ようになります。

1. 選挙は従来どおりに2年ごとに行う。

40歳以上：4名

40歳以下：4名

2. 幹事会の構成は以下のようにする。

1992年の選挙：

A) 1992～1995年の幹事：40歳以上2名、40歳未満2名 (付)

(上位1、2) (上位1、2)

B) 1992～1994年の幹事：40歳以上2名、40歳未満2名

(上位3、4) (上位3、4)

1994年の選挙：

C) 1994～1995年の幹事：40歳以上2名、40歳未満2名

(上位1、2) (上位1、2)

A) 幹事4名

D) 1995～1996年の幹事：40歳以上2名、40歳未満2名

(上位3、4) (上位3、4)

C) 幹事4名

B) 幹事4名辞任

1996年の選挙：

E) 1996～1997年の幹事：40歳以上2名、40歳未満2名

(上位1、2) (上位1、2)

D) 幹事4名

C) 幹事4名辞任

F) 1997～1998年の幹事：40歳以上2名、40歳未満2名

(上位3、4) (上位3、4)

E) 幹事4名

D) 幹事 4 名辞任

1998年の選挙、幹事会の構成は、1996年の方法に従う。

G)

H)

3. 以上の改正は1990年の総会の承認を得る必要があるので、1992年から実施可能になる。

付：A) 幹事のみは、規約改正のために任期3年になる。この点も総会に諮りたい。

4. 細則の第3章第4項を以下のように変更する。

幹事の投票は8名連記、無記名、郵送によって行う。40歳以上および40歳未満について、得票数の上位1、2の各2名を次年度より2年間の、3、4位の各2名を次々年度より2年間の幹事とする。

細則は幹事会の議決により、変更が可能であるが、大きな変更なので総会で了解を求める。

§ お 知 ら せ

1. 第63回大会について (第2回)

○ 日 時：平成2年(1990年)5月21日(月)午後

22日(火)

23日(水)

○ 会 場：国立京都国際会館

〒606 京都市左京区宝ヶ池

TEL 075-791-3111

○ プログラム概要

・基調講演 (未定)

・特別講演 「培養細胞とその機能

藤島および血管内皮細胞の培養を通じて (仮題)」

大分医大 高木良三郎

・教育講演(1) 「染色体分析技術の進歩

細胞遺伝学と分子遺伝学の接点 (仮題)」

京府医大 三澤信一

・教育講演(2) 「微量生理活性ペプチドの遺伝子クローニングに

よる構造決定と生産」

サントリー生物医学研究所 中里 紘

・シンポジウム(1) 「神経系細胞の形態分化と機能発現」

・シンポジウム(2) 「小児固型腫瘍の細胞分子・生物学的特性」

・シンポジウム(3) 「ホルモン依存性腫瘍」

・一般演題

・総会参加費、懇親会費：総会参加費 会 員 500円

非会員 6,000円

懇 親 会 費 4,000円

<第63回大会の一般演題の募集>

第63回大会の一般演題を募集します。ふるってご応募下さいますようお願い致します。

- 演題申し込み
最終から2ページの申し込み用紙を用いてお申し込み下さい。折り返し抄録用紙をお送りしますので、タイプまたはワードプロセッサで作製の上、ご返送下さい。なお、抄録用紙は昨年と同じ形式です。

- 演題申し込み締切 1月31日(必着)

- 抄録締切 2月20日(必着)

- 申し込み、問い合わせ先

第63回世話人 今西二郎

〒602 京都市上京区河原町広小路上ル梶井町465

京都府立医科大学微生物学教室内

日本組織培養学会第63回大会事務局

TEL 075-251-1296

FAX 075-252-2495

一般演題申込書 (締切1月31日)

No. _____

演題名
演者名
所属・住所・TEL

必要ときは拡大コピーをとって下さい

参加申込書 (早めにお申し込みください)

No. _____

氏名	懇親会 参加/不参加と記入
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	
所属・住所・TEL	

必要ときは拡大コピーをとって下さい

「日本組織培養学会第63回大会」

宿泊のご案内

この度、首記会議のご宿泊をJTB京都支店にて取扱わせて頂く事となりました。お得な特別学会料金にてご用意しており、又、会場の国立京都国際会館までホリディインより送迎バスがございますので是非ご利用下さい。受付順に予約致しますので、お早目のお申込みをお待ち申し上げます。

- 1) ホテル名、料金（1泊、お部屋代、税金・サービス料込み、お1人様料金）

ホ テ ル 名	S B	T B	S U
ホリディイン京都	¥ 7,000	¥ 6,000	¥ 9,000

（S B=シングルルーム/T B=ツインルーム/S U=ツインルームのお1人様使用）

- 2) お申込方法

- a) 現金書留にてお支払いの場合は、宿泊申込書に必要事項をご記入のうえ、宿泊予約金（1名につき10,000円）を添えてご送金下さい。
- b) クレジットカードにてお支払いの場合は、事前引落しをいたしますのでクレジットカードのコピーを添えて、宿泊申込書に必要事項をご記入のうえ、ご郵送下さい。

- 3) お申込締切日は、1990年5月7日です。

- 4) 取消料およびご返金については、以下のとおりです。

- ・ 宿泊日の9日前迄のお取消……………1,000円
- ・ 宿泊日の8日前以後2日前迄のお取消……………お部屋代の20%
- ・ 宿泊日の当日のお取消および無連絡……………1泊分の宿泊料金

- 5) 宿泊に関するお申込、お問合せは、以下にお願い申し上げます。

〒600 京都市下京区東塩小路町

JTB京都支店

TEL (075) 361-7241

「日本組織培養学会第63回大会」係

FAX (075) 341-1028

「日本組織培養学会第63回大会」宿泊申込書

No _____

お申込日 月 日

代表者氏名		TEL ()
郵便物送付先	(〒)	

氏 名 (ふりがな)	宿 泊 日				
	5/21	5/22	5/23	部屋タイプ	予 約 金
				S	
				T S	
T……ツインルーム、S……シングルルーム				予約金合計	

支払い方法 (どちらかに○印をつけて、bの場合は下欄にもご記入下さい。)

- a. わたくしは、支払いを現金書留で行います。
 b. わたくしは、支払いを下記カードで行います。

利 用 カ ー ド 会 社 名		有効期限	カ ー ド 番 号
(1) YES JTB カード	(5) V I S A	19 年 月 日	
(2) ダイナースクラブ	(6) ユニオンクレジット		
(3) 日本信販	(7) ダイヤモンドクレジット		
(4) J C B	(8) ミリオンカード		

ご署名 _____ 印

2. 文部省科学研究費 総合研究B 公開シンポジウム

【ホルモンによる遺伝子発現調節および病態に関する研究】

日 時：平成2年1月12日(金) 13:00~16:30

場 所：新大阪駅そば 大阪ガーデンパレス (TEL:06-396-6211)

集会は公開ですのでご参加を歓迎しますが、準備のためはがきで人数のみ下記にお知らせ下さい。なお、電話申し込みはご遠慮下さい。

代表者：〒770 徳島市蔵本町3 徳島大学酵素センター 市原 明

主 題：糖代謝および糖新生の遺伝子レベルでの調節

スピーカー：はじめに……市原 明 (徳島大・酵素センター)

血糖調節の病態分子生物学……井村裕夫、葛谷英嗣、清野 裕 (京大・医)

すい臓ホルモン形成調節……岡本 宏 (東北大・医)

ホルモンによる解糖系律速酵素の遺伝子発現調節……野口民夫、田中武彦 (大阪大・医)

ホルモンによる尿素サイクル酵素遺伝子群の発現調節……森 正敬、滝口正樹 (熊本大・医)

セリントランスアミナーゼ……市山 新 (浜松医大)

3. 第6回初代培養肝細胞研究会

日 時：平成2年6月1日(金)、2日(土)

場 所：ホテル華香園 〒830 福岡県久留米市櫛原町87

TEL 0942-35-5351

出席、発表の詳細は下記に郵便にてお問い合わせ下さい。

連絡先：初代培養肝細胞研究会事務局

〒770 徳島市蔵本町3丁目18番地の1

徳島大学酵素科学研究センター 酵素病理部門

世話人：久留米大学医学部第二内科

向坂 彰太郎

§ 第1回動物細胞工学シンポジウムについて

上記シンポジウムが下記の要領で去る11月28日仙台市で開催されました。多分野から多くの参加者があり、また討議も活発で、今後継続的にさらに発展していくことが期待されるシンポジウムでした。

○ シンポジウムテーマ

テーマ1 「有用遺伝子の導入の発現」

テーマ2 「細胞工学の新展開」

1. 主催 日本組織培養学会
日本応用細胞生物学研究会
東北地域バイオインダストリー振興会議（後援）
2. 期日 平成元年11月28日（火） 9：30～17：00
3. 会場 良陵会館
〒980 仙台市青葉区広瀬町3番34号
TEL 022-227-2721
4. 世話人 山根 績（東北大学）
猪岡 尚志（東北大学農学部）
5. 会費 参加費 1,000円（シンポジウム要旨集代を含む）
6. 懇親会 場所：良陵会館
日時：11月28日（火） 18時～20時
会費：4,000円
7. 連絡先 第1回動物細胞工学シンポジウム準備委員会
〒980 仙台市青葉区1番町3-9-13
DATE ONE ビル5F
【東北ニュービジネス協議会】内
TEL 022-261-2898
FAX 022-261-2890

8. プログラム

- 9：30 開会の挨拶 山根 績（日本組織培養学会細胞工学委員会委員長）
学会長挨拶 黒田行昭（日本組織培養学会会長）
- テーマ1 「有用遺伝子導入と発現」
司会 古沢 満（第一製薬：中央研）
松村外志張（明乳：ヘルスサイエンス研）
- 9：40 ヒト扁平上皮細胞への遺伝子の導入と発現

安本 茂 (神奈川県立がんセンター)

10:15 ナマルバ細胞を宿主とする有用蛋白質の遺伝子工学的生産

柳 秀樹 (住友化学・生命工学研究所)

10:50 哺乳動物細胞を使用した物質生産

金森利至、荻野博巳、野田浩一、中村範夫、森下英昭、山川徹、長瀬安数、中山和行、難波正義 (持田製薬(株)バイオサイエンス研究所、川崎医科大学実験病理)

11:25 カイコ・バキュロウイルス系を用いた有用タンパク質の生産

堀内 正 (第一製薬中央研究所分子生物研究室)

12:00 休憩

テーマ2 『細胞工学の新展開』 司会 小林茂保 (バイオマテリアル研)

梅田 誠 (横浜市立大木原研)

13:10 加熱殺菌可能無血清培地の開発とその実用性

源 良樹、阿部英樹、小山直人、和志武雅代 (味の素(株)中研)

§ 編集後記

- 昭和から平成へと年号のあらたまった1989年ももう少しで終わろうとしております。この1年間、何かと感慨深いものがあるのではないのでしょうか？
- 本号には重要な案件が3つ掲載されております。1つは、第63回大会。是非多数の方々の御参加と演題発表をお願い致します。次に、規約改正の件。今年の総会で提出され、問題があるとのことで懸案になっている事項です。来年5月の総会までに充分検討していただければ幸甚です。最後は、国際問題。1991年に開催されるUSTCAの総会をJapTCAとのJoint Meetingにするか否かの件です。急を要しますが、充分協議の上、結論を出すべき問題でしょう。
- 窓外遠く、安達太良、吾妻連峰は、純白の稜線に縁どられ、なだらかな山脈をしたがえてその礼容を透明な冷気の中に誇示しております。当地はすでに真冬の気配です。皆様の御健康と本号が年内にお手許に届くことと、良いお年を迎えられますことを念じつつ。(1989. 12. 15)

§ 新 入 会 員 (26名)

氏 名	現 住 所	所 属 機 関・所 在 地
有 馬 美 則	〒177 練馬区大泉学園町6-3-28 ☎03-921-0242	日本大学医学部第二外科 〒173 板橋区大谷口上町30-1 ☎02-972-8111
安 藤 寿	〒962 須賀川市桜岡74-6 ☎0248-75-0334	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)開発部 〒962 須賀川市大桑原女夫坂1 ☎0248-75-6100
石 原 好 仁	〒781 三鷹市井口1-17-22 農水省 三鷹寮201 ☎0422-32-9991	農林水産省動物医薬品検査所 〒181 国分寺市戸倉1-15-1 ☎0423-21-1841
伊 良 子 光 正	〒145 大田区田園調布2-47-8-603 ☎03-721-5505	日本大学医学部第二外科 〒173 板橋区 大谷口上町30-1 ☎03-972-8111
大 石 英 俊	〒533 大阪市東淀川区小松4-1-2 -114 ☎06-321-9251	大日本製薬㈱総合研究所 〒564 吹田市江の木町33-94 ☎06-337-5922
大 久 保 禎	〒259-01 神奈川県中郡二宮町二宮 1443-3 ハイッ松本23 ☎0463-71-9376	ポーラ化成工業㈱横浜研究所 〒221 横浜市神奈川区高島台27-1 ☎045-322-7111
大 畑 正 昭	〒173 板橋区向原1-14-14 ☎03-956-6555	日本大学医学部第二外科 〒173 板橋区大谷口上町30-1 ☎03-972-8111
大 森 一 光	〒116 荒川区西尾久4-12-11-144 ☎03-810-0265	日本大学医学部第二外科 〒173 板橋区大谷口上町30-1 ☎03-972-8111
小 笠 原 弘 二	〒177 練馬区石神井台1-3-7 ☎03-904-9196	日本大学医学部第二外科 〒173 板橋区大谷口上町30-1 ☎03-972-8111
金 井 裕 子	〒111 台東区元浅草2-7-12 東宝 マンション203 ☎03-833-8507	群馬大学附属病院神経内科 〒371 前橋市昭和町3-39-15 ☎0272-31-7221
川 原 大	〒570 守口市東光町1-28 ☎06-991-3188	大阪歯科大学歯科理工学教室 〒540 大阪市中央区大手前1-5-31 ☎06-943-6521
北 村 一 雄	〒176 練馬区高松6-12-5-4-103 ☎03-997-3896	日本大学医学部第二外科 〒173 板橋区大谷口上町30-1 ☎03-972-8111
佐 藤 裕 美 子	〒165 中野区鷺宮4-43-16 ☎03-330-7801	昭和薬品化工㈱研究所薬理研究室 〒213 川崎市高津区下野毛860 ☎044-833-0381
信 太 隆 夫	〒168 杉並区永福2-2-3 ☎03-324-4167	国立相模原病院リウマチアレルギー臨床研 究部 〒228 相模原市桜台18-1 ☎0427-42-8311
玉 井 功 一	〒232 横浜市南区永田東2-8-28 ☎044-714-3098	保健科学研究所変異原性試験室 〒240 横浜市保土ヶ谷区神谷町106 ☎045-333-1640

中田正典 〒250 小田原市早川 3-21-2 A-302 ☎0465-23-5744

鐘紡(株)生化学研究所II-2
〒250 小田原市寿町 5-3-28
☎0465-34-6116

中村士郎 〒400 甲府市塩部 4-16-17 ☎0552-33-4106

日本大学医学部第二外科
〒173 板橋区大谷口上町30-1
☎03-972-8111

中村嘉彦 〒257 秦野市南矢名1016-3 LM東海大学前402 ☎0463-78-8808

東海大学病院輸血センター
〒259-11 伊勢原市望星台
☎0463-93-1121

長坂不二夫 〒165 中野区野方 1-55-9 ☎03-385-3995

日本大学医学部第二外科
〒173 板橋区大谷口上町30-1
☎03-972-8111

名取宏 〒400 甲府市高畑 2-18-7 ☎0552-22-7004

日本大学医学部第二外科
〒173 板橋区大谷口上町30-1
☎03-972-8111

西野輔翼 〒573 枚方市牧野本町 1-25-2 ☎0720-57-7241

京都府立医科大学大学生化学教室
〒602 京都市上京区河原町通広小路上ル
梶井町465 ☎075-251-5315

深町博史 〒210 川崎市川崎区日進町 1 サンスクエア川崎 1-1101 ☎044-244-9426

東京大学理学部動物学教室
〒113 文京区本郷 7-3-1
☎03-812-2111

本間一久 〒257 秦野市鶴巻1176-1 ライオンズマンション908 ☎0463-77-1126

川澄化学工業(株)
〒229 相模原市横山台 1-26-7
☎0427-56-5612

松本堅太郎 〒165 中野区新井 3-15-9-303 ☎03-387-6317

東京大学医学部歯科口腔外科
〒113 文京区本郷 7-3-1
☎03-815-5411

村上孝司 〒228 相模原市相模台 4-6-21 クレセントハウスB102 ☎0427-40-3749

国立相模原病院リウマチアレルギー臨床研究部
〒228 相模原市桜台18-1
☎0427-42-8311

村松高 〒176 練馬区桜台 1-4-11 ライオンズマンション906 ☎03-993-4336

日本大学医学部第二外科
〒173 板橋区大谷口上町30-1
☎03-972-8111

§ 住所変更 (13名)

氏名	現住所
金子隆司	〒346 久喜市吉羽1407-1
鍋木健志	〒281 千葉市稲毛海岸 5-5-10-303
川瀬雅子	〒164 中野区中央 3-9-11 ☎03-368-7494

所属機関・所在地
(株)コスモ総合研究所バイオテクノロジー研究所 〒340-01 幸手市権現堂1134-2 ☎0480-42-2297
水産庁海洋漁業部国際課 〒100 千代田区霞ヶ関 1-2-1 ☎03-502-8111
(株)カインス伊東研究所 〒414 伊東市岡字旭1274-7 ☎0557-36-9155

- 白 畑 実 隆 〒811-31 福岡県粕屋郡古賀町久保
1612-388 公務員住宅6-15
☎092-944-4173 九州大学大学院農学研究所遺伝子資源工学
専攻 〒812 福岡市東区箱崎6-10-1
☎092-641-1101
- 菅 沼 優 〒338 与野市鈴谷7-3-36
☎048-853-6283 聖マリアンナ医科大学医学部微生物学教室
〒213 川崎市宮前区菅生2-16-1
☎044-977-8111
- 鈴 木 隆 元 〒176 練馬区小竹町1-77-6
☎03-955-3345 キリンビール㈱医薬事業開発部研究企画担
当 〒150 渋谷区神宮前6-26-1
- 仙 波 ま り 〒214 川崎市多摩区登戸2950
☎044-934-1706 ㈱食品薬品安全センター秦野研究所
〒257 秦野市落合729-5
☎0463-82-4751
- 中 島 光 業 〒241 横浜市旭区南希望ヶ丘118 森永
乳業希望ヶ丘寮 森永乳業㈱生物科学研究所
〒228 座間市東原5-1-83
☎0462-52-3070
- 永 井 栄 一 〒281 千葉市花崗1-5-6 原田荘
8号 ☎0472-72-1850 第一製薬㈱本社医薬開発第二部
〒103 中央区日本橋3-14-10
☎03-272-0611
- 間 杉 彰 夫 〒372 伊勢崎市富塚町661
☎0270-32-7976 エーザイ㈱本庄工場品質管理部
〒367 本庄市南2-3-14
☎0495-22-5171
- 松 橋 佑 子 極東製薬工業㈱
〒318 高萩市大字上手綱字朝山3333-26
☎0293-23-0911
- 山 田 倫 久 極東製薬工業㈱開発部
〒318 高萩市大字上手綱字朝山3333-26
☎0293-23-0911
- 横 川 泰 緒方町国保総合病院
〒879-66 大分県大野郡緒方町馬場712